そろっと英米語学科新聞やき

Vol.3

2022.11.30

磯目美空
〇フィリピン留学体験記

佐藤乃琉
〇採用復活！憧れの航空業界へ

レンヒフォ・カオリ
〇ペルー生まれ日本育ち

泉明里
〇ITで世界に羽ばたく

大野英樹先生
〇多文化主義に身を置いて

フィリピン留学体験記-2022年夏

英米語学科２年、英語教員志望の磯目美空(みく)さんは、夢への大きな一歩である初の海外留学をフィリピンで体験してきた。彼女の語学留学への姿勢はまさに、語学を極める学生のかがみ。フィリピンでの英語学習の様子をインタビューしてきた。

●留学をしようとした一番の理由とは

実は私の中で一番行きたかったのはフィリピンじゃなかったんです。本来の目的はイギリスの英語教員学校への留学で、今回のフィリピンは海外慣れをするために行きました。

●現地ではどのような生活をしていましたか？

EV English Academy という学校に通い、寮生活をしていました。様々なコースのなかで、Speaking コースを選び、１日およそ１０時間以上のレッスンを週５で受けていました。授業はほぼマンツーマン形式で行われ、英語尽くしでした。休日は現地で知り合った留学生と出かけたり、軽い旅行などもしていたりしました。

●フィリピン留学の良さを紹介して下さい

私の通っていた学校では十分英語に打ち込める環境が用意されていました。１対１なので、文法の間違いをすぐに指摘してもらい、受け身の授業だけでなく、自発的に学習ができる機会が増えます。また現地には、日本人以外の留学生もいるので寮生活でルームメイト(台湾人とモンゴル人)になった際には様々な刺激も味わえます。まさに海外慣れをするためにはリーズナブルかつ、初心者にやさしい環境に近いと思いました。

●自分にとって納得がいかなかったことなどもありますか？

現地の英語は本場の英語ではなかったことです。拓殖大学にはネイティブの先生がたくさんいるのでアメリカ、イギリス英語といった現地の発音などを聞くことに慣れていました。しかし英語学校の先生は完璧な発音をしている人は少なく、不満でした。フィリピンは日本人留学生にとても人気で、学生の半数は日本人留学生で日本語が飛び交っていました。海外慣れをすることが目標だった私にとって、環境がガラッと変わった感じがしなかったのは物足りなかったです。

●これからフィリピン留学を考えている人にアドバイスはありますか？

もし、英語を使う環境で留学をしたいのであれば、夏休みなどの長期休暇を避けることをお勧めします。たくさんの大学が長い休暇に留学プロジェクトなどを計画しているうえに、単純に旅行に来た学生なども増えます。海外にいながら英語に囲まれた環境が得られない可能性があり、留学の意味が薄れてしまう場合があると感じました。時期をしっかり見極めることも重要だと思います。

●留学を踏まえてこれからどうしていきますか？

私にとってフィリピン留学は納得いかない部分が多かったです。しかし、留学後すぐの TOEIC は留学前から１００点上がって、７５０点以上の点数を取れ、英語力は確実に上がったと思います。

この留学の中で大切だと思ったことは、環境の変化に適応して、行動をすることが自分の進化の大きな一歩につながるということです。また、行ってみないとわからないことや、工夫をしなければいけない点もたくさん出てきます。このフィリピン留学を、自分の教員を目指すための学生生活のバネとして、全力で大学生活を送っていきたいと思います。

（中村　塁）

(写真右:磯目美空さん)

ペルー出身のレンヒフォ　カオリさん

英米語学科２年生の彼女が感じる日本の事などを聞きました！

■日本に来るきっかけって？

ペルーの経済状況が悪くて先に両親だけが祖母の母国である日本に来ていました。当時１２歳だった私と祖母の二人がペルーで暮らすことは厳しかったので、私と祖母も日本に来ることになりました。

■ペルーってどんなところ？

ペルーは日本と違って治安も悪く、警察は機能していないのが当たり前です。田舎のほうに行くと水や病院、電気もありません。政治家もお金のためにいるようなものなので、全て賄賂で動いているような国です。物価がもの凄く高いです。例えば日用品だと、日本では１００円で売られている５００mlの水が、５００円もします。

ですが、サッカーの応援になると皆で一致団結することもあります。

■日本とペルーとのギャップはあった？

『お客様は神様』という日本の考えが理解できませんでした。ペルーでは、お客様だとしても人は皆同じ立場で話します。コンビニのバイト中に、お客さんにお金を投げて渡されたことがあります。私はお客さんだから何をしてもいいとは思いませんでした。でも、言い返せない感がありました。先輩や後輩のような上下関係もペルーにはありません。

■日本の良い印象は？

治安の面ではとても安全で、ゴミも落ちていなくてキレイな国だなという印象です。私は、日本のリサイクルの仕組みに感心しました。あと、日本人は周りを見て行動する（気配りなど）人が多いなと思いました。

■日本の悪い印象は？

正直に言うと、日本人の印象は悪かったです。日本の生活で嫌な思いを沢山しました。コンビニのバイトでは、外国人だからと嫌われることもありました。

日本は、『個性的であることが変』だという意識を持っているイメージがあるので、外国人に対しての理解力が足りていないのだなと感じます。

■日本語の習得はどうやって？

本を買って１人で勉強しました。日本に来たばかりの頃私は中学生で、英語と数学の授業以外は全く日本語が分からなかったので寝ていました。とにかく１人で勉強して、理解してから実践するようにしていました。そのおかげで中学３年生くらいの時に日本語が分かり始めました。

■日本の大学生活はどう？

今は、自分の視野を広げていろんな角度から物事を考えられるようになりたいので、コミュニケーション能力を上げたいです。そのために外国人だけでなく、日本人など色々な人と関わることを心掛けています。

■将来は決めている？

決まってはいませんが、「困っている人を助けたい」という軸があるので、人の役に立てる仕事がしたいです。今は、翻訳や通訳の仕事に興味を持っています。英語を身につけるために外国人がよく来るバイトを選び、学校の授業と合わせると１週間毎日英語を使っていて、英語を使わない日はありません。

■記者から

日本に来てゼロから一人で日本語を勉強したのに、すごく上手に話せていて驚きました。また、レンヒフォ　カオリさんの向上心の高さに感心しました。卒業後はまだ悩んでいるようですが、自分の軸を大事にして仕事を見つけて欲しいと思います。

（宮内　萠望）

レンヒフォ　カオリさん

多文化主義に身を置いて　―大野英樹先生がカナダの剣道で得た価値観―

英米語学科の大野英樹（えいき）先生は 2021 年の 8 月から年間カナダのヴィクトリア大学（University of Victoria：以下 UVic）に客員研究員として長期留学した。カナダでの生活、衝撃を受けた出来事についてお話を伺った。

〇カナダ留学のきっかけ

まずは留学先に UVic を選んだ理由を教えていただいた。

「元々カナダが好きだったんです。大学の短期研修の引率で前に訪れたことがあり、そこで過ごせたら夢のようだと。だから絶対にカナダと決めて大学を探し始めました。カナダの中でも UVic は僕の専門の研究が盛んだったため、留学生活をそこで過ごすと決めました。」

英語学と日本語学を専門にする大野先生にとって、英語で日本語学を研究し、研究者と直接コミュニケーションをとれる環境は好ましいものだった。UVic の学生や研究者とともに研究に没頭した最高の 1 年間だったという。

〇剣道を通して

UVic では研究の傍ら剣道に打ち込んでいた。大学で出会った先生に誘われ、大学の剣道クラブに参加していた。

「小中と剣道をやっていた僕にとって、海外で英語でやる剣道は新鮮で楽しかったです。UVic の学生はもちろん、バンクーバー島の小学生から大人までが集まり、剣道で交流しました。子どもとは日本のアニメについて、大人とは経済についてなど幅広く話せてよかったです。」

こうして剣道に打ち込みながら、日本でやっていた剣道とのギャップを感じたという。

「剣道が楽しいかどうか、自分が上手くなりたいかどうかを全員が重視していました。だからいい意味で競争がないんです。正しい型はこうだよと話していた際、Eiki, enjoy!!と言われたこともありました。すっと気が楽になり、これまで自分がいかに競争社会に身を置いていたかを実感しました。おかげで楽しみながら剣道に取り組むことが出来ました。」

〇人のよさで感じた多様性

競争がなく、自分がどうありたいかを重視していることを剣道で実感したが、日常生活でも似たことを感じた。

「自分らしく生きている人が多い印象でした。僕には服装が奇抜に見える人でも平然と街を歩いていました。これは各々が他人の目を気にせず、着たいものを着ているからだと思います。また、年齢関係なく挨拶や立ち話をしていることにも驚きました。剣道の袴を着て街を歩いていたら子どもたちに So cool!!と話しかけられましたし。自分らしさを大事にするし、相手のことも尊重できる。街で出会った方々は人柄が良かったですね。」

ヴィクトリアでの生活はまさに多様性を感じる出来事の連続だった。

「もう違って普通なんです。移民を多く受け入れているバックグラウンドがカナダにはあります。いろんな人がいるから多様性がないとそもそも社会が成り立ちません。これは日本との決定的な違いだと思いました。」

〇だからこそ留学へ

最後に留学生活を振り返っていただいた。「留学には勉強をしに行く以上のことがあります。行ってその環境に身を置かないとわからないことがたくさんあるので、やはり行ってよかったと思いました。」

カナダ留学で感じたことをより多くの人に感じてもらいたい、若いうちにこういった経験をしてほしいという願いから、大野先生は学生へ UVic への留学を勧めている。

「現在 UVic 剣道クラブの師範であり、カナダへの留学エージェントを務めている林大輔先生に協力していただき、学生のカナダ留学の手助けをしています。すでに拓殖大学から学生二名（3 年生と 4 年生）をカナダに送り出しました（2022 年 11 月 30 日時点）。コロナ禍で留学を諦めていた人、個人留学をしたい人はぜひご相談ください。」

（インタビュー：伊東輝）

採用復活！　憧れの航空業界へ

大手航空会社のグランドスタッフとして内定を貰った英米語学科４年生の佐藤乃琉さん（さとうないる）の就活の様子と今までの大学生活について聞きました！

■就活の流れ

2 年生 3 月：就職活動開始（企業の情報集め）

3 年生前期：マイナビやリクナビなどの就活サイトを使って、気になる企業の説明会を受ける。SNS などを用いて、就職情報やインターンについて調べる。

3 年生後期：9～12 月頃はひたすらインターンに参加し、1～3 月頃は選考に関する具体的な企業の説明会を受ける。

3 年生 3 月：選考（2 月の早期選考）を受けて、初めて内定が出る。

4 年生４～６月頃：ひたすら面接を繰り返す。いくつか内定は貰ったが、希望の業界や企業の内定が出るまで受け続ける。

４年生の６月末：航空業界２社から内定が出て就活終了する。9 月上旬までどちらの企業にするか迷うが、航空会社 A に決定。

■航空業界を目指したきっかけは？

幼い頃、家族全員で何度も海外旅行に行っていたのですが、その際、客室乗務員の方へ憧れたのがきっかけで、小学生の頃には航空業界で働くことが夢になりました。

■選考フローについて教えてください！

基本的には説明会等含めて９割オンラインでした。

航空会社 A

書類選考（WEB&手書き両方）→一次面接（空港での対面：学生２面接官２）

→最終面接（空港での対面：学生１面接官２）

航空会社 B

書類選考(WEB のみ)→一次面接(学生４面接官２）→二次面接（学生４面接官２）→最終面接（学生１面接官２）

■面接ではどんなことを聞かれましたか？

内定を頂いた航空業界２社で共通する質問としては、体力的に厳しい仕事だが大丈夫か、チームワークに大切なことはなにか等がありました。あとは、接客以外の配属になった場合どうするか、どうしてこの業界を選んだのか、聞かれることもありました。

■航空業界２社から内定を貰ったそうですが、最終的にどうやって一社に絞りましたか？

元々、航空会社 A にあこがれがありました。近所に航空会社 A の CA の方がいたこと、小学生頃に航空会社 A の工場見学に行ったことが、今に繋がっているのかもしれません。

■航空業界以外はうけましたか？

ホテル業界等、主にサービス業界を中心に受けました。第一希望は航空業界でしたが、コロナ禍で不安定な業界となってしまったため、航空業界が全滅や採用中止しても良いように、他の業界も受けました。

IT や事務職を含めた様々な業界の説明会やインターンに参加しましたが、業務内容に興味を持てず、最終的にサービス業中心に就職活動することになりました。アルバイトで接客が楽しいと強く感じたことも理由の一つです。

■就職活動で大変だったことは？

ゼロから手探りで、自主的に進めていくことが大変でした。自分で動かなければ何も始まらず、面倒くさがり屋な私にとっては始めることさえ嫌でした。また、就職活動を進めていく不安をコントロールするのも苦労した点です。

■どのように不安と向き合いましたか？

周りの友達や他の就活生と自分を比較してしまうこともありました。ES の提出や面接を繰り返していくうちに場数を踏めば大丈夫だと感じ、メンタルが安定していきました。就職活動のことをあまり気にしすぎず、気楽に進める方が良いと思います。

ただ、1 社目の内定が出るまでは正直、このままどこにも就職できなかったらどうしよう、自分の希望する企業に受からなかったらどうしよう、と多くの不安と共に就職活動をしていました。

■グランドスタッフの仕事自体に将来の不安を感じることはありましたか？

内定後にその不安は感じましたが、私が受けたサービス業界のほとんどが、AI に代わる不安があると思います。今は小さい頃から夢だった業界で働けることに嬉しい気持ちです。もし仕事がなくなってしまった時は、その時にどうするか考えたいと思います。

■航空業界の就活を終えて感想をお聞かせください。

何かに長けた能力がなくても、航空業界への内定のチャンスは十分あると感じました。大切なのは自分のやってきたことを見る姿勢です。また、ES や面接での適度なずる賢さや謙虚さでより内定に近づくのではないか、と選考後に気づきました！（笑）

■大学生活が就職活動に役立ったと感じたことは？

コロナ禍での大学生活が役に立ったと感じました。コロナ禍で制限が掛かる中、自分は何を努力したのかが重要であると就活を通して感じました。そのため就職活動のガクチカの部分ではアルバイトについて答えることが多かったです。

■最後に社会人になってからの展望を教えてください！

今はまだ社会人になる想像ができていないので、就職先のお仕事に一生懸命取り組みたいと考えています。その中で、自分が挑戦したいことが出てきたらまた考えたいと思っています。できる限りの準備（一人暮らしの計画や語学向上等）はしようとしているところです！

■記者からのコメント

入学当初から、航空業界を目指していると話していた佐藤さんから内定の報告が聞けてこちらも嬉しい限りです！勤勉で優しい人柄が面接の方にも伝わったのかもしれませんね。まだまだコロナ禍ではありますが、興味のある方は航空業界にもぜひチャレンジして欲しいです！（小林　和果奈）

（写真：佐藤乃琉さん）

ＩＴで世界に羽ばたく

英米語学科から IT 企業に就職する学生が増えている中、今回、IT 業界大手に就職を決めた４年生の泉明里（いずみあかり）さんに就活の様子を聞きました。

■内定先企業、職種内容

企業名：日本 IBM

職種内容：デジタルビジネスコンサルタント
クライアント企業の経営課題を解決するシステム導入の提案、IT を用いた企業戦略を考える

■就活期間

３年生６月～１月下旬

■なぜ IT 業界に？

大学に入学した当初は、ゲームや映画などのエンタメ系の業界を考えていました。しかし、人気で倍率の高い業界で、「好き」ということ以外に志望する理由がありませんでした。

説明会を受けていく中で IT 業界に興味を持ち、選考を受けていきました。将来のキャリアや業界の市場価値を考えて、IT 業界がベストだと思いました。その中でも、コンサルタントとして IT 業界に関わろうと決めました。

■面接で聞かれたこと

聞かれたことは主に、コンサルタントを志望する理由、IBM を志望する理由、５年後のキャリアプラン、エントリーシートに記載したことについて、どの分野に関わりたいか、クライアントからの無謀な要望や望む通りの結果が望めなかった時にどうするかなどです。

選考は、ES→テスト→グループディスカッション→最終面接という流れで行われました。

■日本 IBM の決め手は？

外資系コンサルタント会社は、戦略系と IT 系に分けることができます。戦略系の大手４社のデジタル関係の部署か、IT 系の大手２社のどれかに入りたかったので、内定を頂けた日本 IBM に決めました。

日本 IBM の魅力は、他の会社よりチームワークを重視する社風であること、自社システムを保有していることです。

■日本 IBM での働き方は？

担当しているプロジェクトとクライアント先の企業によって働き方が変わってきます。深夜まで残業する時もあれば、定時で帰れるときもあります。また、対面やリモートワークもその時々で変わります。

コンサルタント会社は、このように労働環境が様々なので「ブラック」と言われていましたが、近年は、完全週休二日制になっているそうです。

■就職先企業でやりたいこと、目標

まず、ビジネスとデジタルの知識を身に着けて専門性を磨きます。そのために、簿記検定３級と IT パスポートの資格を勉強中です。

１０年後には、プロジェクトリーダーとして働き、グローバルに活躍したいです。

■就活を振り返って

コロナ禍で予定していた留学が中止となり、自己アピールに厚みがなくなってしまい苦労しました。その代わり、情報収集と分析にしっかりと取り組みました。

一見、IT 業界への就職は難しく思えますが、英米語学科からでも IT 企業は問題なく目指すことができます。大切なことは、志望している企業の強みや自分がそこで何をしたいのかを明確にすることです。

（川上 莉穂）

写真：泉明里さん

3号 編集後記

大野先生へのインタビュー終了後、気づいたら二人で2時間ぐらい00年代サッカー談義をしていました。

それが終わると、大野先生は剣道部の練習へと向かって行きました…　　（伊東 輝）

留学って本当に得られるものが桁違いに違いますよね。インタビューをしていたら明日にでも海外に行きたくなりました。明日から留学vlog動画見漁るかなあ。　　（中村　塁）

食わず嫌いをしてIT業界は避けていたので、業界用語はチンプンカンプンです。興味がなくても一通り触れてみると、意外な出会いがあるかもしれませんね。ちなみに私は全く興味なかった「ワンピース」を見始め、ドはまり中です。　　（川上 莉穂）

航空業界の就活ということで未知な部分も多く、こちらもわくわくしながらお話を聞くことができました。だんだん寒くなってきたので、皆さん体調に気を付けてお過ごしください。そして、4年生は残りの大学生活楽しみましょう！　　（小林　和果奈）

私たちが当たり前に暮らしている今の日常が、他国からしたら求めているものであることや、日本のマイナスなところを実際に感じることができて勉強になりました。
（宮内　萠望）